

# 東京湾2水域にカサゴ3万尾放流

## 日釣振東京と遊漁船業組合が実施



常見英彦支部長が挨拶

(公財)日本釣振興会 東京都支部(常見英彦支部長)は9月5日(火)、東京湾遊漁船業協同組合(中山賢理事長)と協力し、カサゴの稚魚3万尾を東京湾・羽田沖浅場海域と若洲海浜公園海釣り施設付近に放流した。

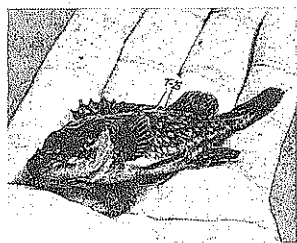
カサゴの稚魚は、今年3月に孵化した愛知県産で、(公財)神奈川県栽培漁業協会を通じて調達。活魚専用トラックにて8時間かけて東京・大森の船宿「まる八」棧橋まで輸送されてきた。

当日は午前8時過ぎ、棧橋に集合した38名の同組合メンバーが、放流する3万尾のうち、3000尾にタグ打ちを実施。タグは、その後の追跡調査などで生育状況等を確認するために行われるもので、今年「白色」で年号などが記入されている。タグが打たれたカサゴを釣り上げて、写真やデータとともにタグを同組合に送るとクオカードが進呈される。

9時には、大田区立大森第一中学校の1年生3クラス計66名が棧橋に到着。稚魚の背びれには年号を刻印した白色のタグを



大森第一中学校の1年生66名が羽田沖に放流



稚魚の背びれには年号を刻印した白色のタグを



①生徒はタグ打ち作業の見学や体験を、



②バケツリレーで稚魚を放流船へ

着。同校の生徒たちは、総合学習、社会体験の一環として毎年放流に協力してきている。棧橋に集合した生徒の前に、同組合の組合員から、今回学や体験、水槽内のカサゴの観察などを行い、そ

育つて釣れるよう放流を「お願いします」などと挨拶した。

その後、稚魚をトラックからバケツリレーで棧橋に集結した釣り船に運び込み、全員がライフジャケットを着こんで釣り船3艘に分乗して出船、羽田沖へ向かった。10時前に

あり、また、日釣振東京支部の常見支部長は、全国で放流や清掃活動、釣り教室などを行っていることを説明。「ルールやマナーを守って釣りに親しみ自然を理解して欲しい。また、稚魚が大きく

は羽田沖に到着。合図を受けて一斉にカサゴの稚魚を放流した。

また、別の1艘は日釣振東京支部のメンバーを乗せ、東京ゲイトブリッジのある若洲沖に向かい、カサゴの稚魚約1万尾を放流。照りつける太陽のもと作業が行われたが、不調を訴える生徒も

おらず放流事業は無事終了した。

同協同組合の中山理事長は「今日は天候にも恵まれ無事放流ができました。子ども達には、こうした機会に身近にある東京湾についての理解も深めてもらい、豊かな東京湾を守り、育てていくという意識をもってもらえればうれしい」と語った。

なお、タグ付きカサゴ

などに関する問い合わせは東京湾遊漁船業協同組合(電話03・6423・1091)まで。



日釣振東京支部は若洲海浜公園海釣り施設付近に放流